

# 令和7年度 鹿児島県 英語教育改善プラン

## 目標

### 英語好きを育てる授業の充実と「CAN-DOリスト」の活用促進

- 「英語の勉強が好き」と肯定的に回答する児童（R6：70.8% ⇒ R7：75.0%）
- 「英語の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答する児童（R6：79.8% ⇒ R7：85.0%）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

## 1. 目標に対する現状

### 改善が進んだ点

- ① 「英語の勉強が好き」と肯定的に回答した児童が全国より多かった。R6全学調  
(本県70.8%⇒全国69.3%)
- ② 「英語の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した児童が全国より多かった。R6全学調  
(本県79.8%⇒全国78.3%)

### 未だ改善が必要な点

- ① 「英語の勉強は大切だと思う」と肯定的に回答した児童が全国と同等だった。R6全学調  
(本県92.4%⇒全国92.1%)
- ② 「指導と評価の一体化」については、教師や学校によって取組に差が見られる。

## 2. 要因分析

- ① 言語活動の充実を意識した授業が広がりつつあることが、肯定的な回答につながったと考えられる。
- ② 「CAN-DOリスト」を児童と共有する学校が増加していることが肯定的な回答につながったと考えられる。

- ① 英語の重要性や授業での学びが実生活にどのように生きるのかなどの理解が不十分であることが考えられる。
- ② 言語活動の目的と手段が明確になっていない、できるようになることが曖昧なまま活動させていることが考えられる。

## 3. 目標を達成するための施策・事業

- ① 「英語好き」を育てる授業の在り方の追究  
県内全小中義務教育学校の英語担当者を対象として行う「英語指導力向上ブラッシュアップセミナー」において、引き続き言語活動の充実について研修を深める。
  - ② 「小中連携したCAN-DOリスト」の活用促進  
県内全中学校区毎に設定している「小中連携したCAN-DOリスト」のより効果的な活用法などを紹介するなどし、好事例を踏まえた研修を上記セミナー等で行う。
- ① 英語を学ぶ意義等の理解促進  
英語でできるようになることやそのよさ等を理解させることに加え、授業を通してできるようになったことを発揮させるようなALT等との活動を充実させることなどについて研修を深め、英語を学ぶ意義等を児童に十分理解させる。
  - ② 「CAN-DOリスト」のより効果的な活用追究  
児童に学びの見通しをもたせたり、自身の学びの現状や変容等を自覚させたりするような、自校の「CAN-DOリスト」の活用の在り方等について、好事例を踏まえた研修を行う。

# 令和7年度 鹿児島県 英語教育改善プラン

## 「生徒の英語力」及び「教師の英語力」の向上

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：50.8%⇒R7：53.0%）

○CEFR B2レベル相当以上を取得している英語担当教師数（R6：41.9%⇒R7：50.0%）

### 目標

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他  
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

## 1. 目標に対する現状

### 改善が進んだ点

① 生徒の英語力判定に「CAN-DOリスト」を活用した学校が増加した。  
R6実施状況調査  
(R5:27.8%⇒R6:37.0%)

② 英語の授業において、デジタルドリルや動画等のコンテンツについて活用(50%以上)する学校が増加した。  
R6実施状況調査  
(R5:38.2%⇒R6:57.3%)

### 未だ改善が必要な点

① 「生徒の英語力の状況」については引き続き課題がある。  
(本県50.8%⇒全国52.4%)  
R6実施状況調査

② 「英語担当教師の英語力の状況」については引き続き課題がある。  
(本県41.9%⇒全国46.2%)  
R6実施状況調査

③ 鹿児島県学力・学習状況調査（R6）における「書くこと」の平均正答率が低かった。  
(中1：55.3%，中2：46.0%)

## 2. 要因分析

① 県内全中学校区において作成した「小中連携したCAN-DOリスト」を中心に、活用が広がっていると考えられる。

② 各種研修会等において、ICT機器の活用を通じた言語活動の充実について取り扱ったことが、実施校の増加につながったと考えられる。

① 改善が進みつつあるものの、言語活動の充実に課題があることが要因と考えられる。

② 資格取得の有効性について、教師個々の意識が十分に高まっていないことが要因と考えられる。

③ 最終的に書けるようにさせるための、「音声から文字」の原則を踏まえた言語活動の充実が不十分であったと考えられる。

## 3. 目標を達成するための施策・事業

① 「CAN-DOリスト」有効活用の更なる促進  
県内全小中義務教育学校を対象として行う「英語指導力向上ブラッシュアップセミナー」等において、「CAN-DOリスト」の有用性について協議するなどの機会を設定する。

② ICT機器活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の更なる促進  
上記セミナー等において、理論的な理解を踏まえた上での具体的な活用方法やその効果等について研修を深める。

① 目的・場面・状況を明確にした言語活動の充実  
授業を通して、生徒に望ましい英語力を付けさせることを徹底するために、言語活動を支える活動及び言語活動の一層の充実を図る。

② 資格取得に対する意識改善の推進  
上記セミナー等において、教師自身の英語に関する専門性を高めることの重要性について理解促進を図る。

③ 音声の土台を重視した書く活動の充実  
上記セミナー等において、音声を通して身近なことから積極的に即興性のある自己表現させること、そのやり取りの中で、生徒が自らエラーに気付けるフィードバックを行い正確性を次第に養うこと、最終的に「書くこと」まで統合した言語活動を適宜設定することについて理解促進を図る。

# 令和 7 年度 鹿児島県 英語教育改善プラン

生徒の英語による発信力を高め、英語力向上を目指す。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合  
(R6 : A2以上47.7%、B1以上16.7% ⇒ R7 : A2以上50.0%、B1以上20.0%)

○授業における生徒の英語による言語活動時間の割合 (R6 : 39.4% ⇒ R7 : 60%)

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他  
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

## 目標

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

① 生徒の英語力の状況が改善 (目標50%)  
(R5:46.8%⇒R6:47.7%)

② 英語担当教師の英語力の状況が改善 (目標 83%)  
(R5:68.2%⇒R6:75.4%)

① 英語担当教員の英語使用状況は向上しておらず、全国との差が開いている。(目標60%)  
(R5:28.9%⇒R6:28.8%)

② 授業における生徒の英語による言語活動時間の割合について引続き改善の余地がある。(目標60%)  
(R5:38.4%⇒R6:39.4%)

### 2. 要因分析

① 県のCAN-DOリストの作成と継続的な周知により、生徒の英語力を正確に把握できるようになったことから、求められる英語力を備えていると判断される生徒の数が増えてきていると考えられる。

① 英語教育実施状況調査の結果を踏まえ、資格取得の重要性や、教師の英語力向上が生徒の英語力につながることを周知したことが、成果につながったと考えられる。

① 言語活動を行う際に、生徒に教師からの英語による言語活動の例が示されていないことや英語使用について教師自身の英語による発話の見取りが不十分であることも要因であると考えられる。

② 授業において学んだ内容をアウトプットする時間の割合が少なく、生徒が英語を使って話したり書いたりする言語活動につながっていないことが原因と考えられる。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

① 生徒の英語力向上の推進  
各種研修会等において授業改善を促し、CAN-DOリストを活用した授業やパフォーマンステストの実施等を通じて生徒の英語力を可視化し、その向上を図る。さらに、「グローバルクラスルーム」等の事業を通じて実体験に基づく英語運用力の育成を支援する。

② 英語担当教師の英語力向上の推進  
英語担当教員の英語力向上に向けて、県主催の各種研修及び総合教育センター等での研修受講を促すとともに、教師の英語力向上について引き続き指導を行い、自主的な資格取得への意欲を高めるよう働きかける。

① 英語使用の促進に向けた実践的支援の推進  
ALTとの合同研修を通じて、英語による指示や、やり取りを含む場面を想定した、実践的で効果的な研修を行う。また、英語の使用割合が低下した学校には、状況の把握を目的とした聞き取り等を行い、英語使用の割合を高める取組を検討し、支援する。

② ALTとのチーム・ティーチング及びICT活用の推進  
ALTとのチーム・ティーチングにより生徒が英語を使ってコミュニケーションを行う場面を増やすよう指導する。また、ICTを効果的に活用し、生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導を通して、英語での発信や、やり取りの活動時間を充実させるよう指導する。

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

鹿児島県教育委員会

| 校種   | 指標内容                                | 2023       |      | 2024 |      | 2025 |     | 2026 |     | 2027 |     |
|------|-------------------------------------|------------|------|------|------|------|-----|------|-----|------|-----|
|      |                                     | 目標値        | 達成値  | 目標値  | 達成値  | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 |
| 高等学校 | ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)     | 50         | 46.8 | 50   | 47.7 | 50   |     | 60   |     | 60   |     |
|      | ①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)     | 20         | 15.9 | 25   | 16.7 | 20   |     | 30   |     | 30   |     |
|      | ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)          | 50         | 38.4 | 55   | 39.4 | 60   |     | 60   |     | 60   |     |
|      | ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)   | 85         | 80.6 | 90   | 79.1 | 100  |     | 100  |     | 100  |     |
|      | ④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況        | 設定(%)      | 100  | 100  |      | 100  |     | 100  |     | 100  |     |
|      |                                     | 公表(%)      | 95   | 100  |      | 100  |     | 100  |     | 100  |     |
|      |                                     | 達成状況の把握(%) | 70   | 68.2 | 70   | 75   |     | 80   |     | 80   |     |
|      | ⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%) | 65         | 68.2 | 70   | 75.4 | 77   |     | 80   |     | 85   |     |
|      | ⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)             | 60         | 28.9 | 60   | 28.8 | 60   |     | 60   |     | 60   |     |

| 校種  | 指標内容                                | 2023       |      | 2024 |      | 2025 |     | 2026 |     | 2027 |     |
|-----|-------------------------------------|------------|------|------|------|------|-----|------|-----|------|-----|
|     |                                     | 目標値        | 達成値  | 目標値  | 達成値  | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 |
| 中学校 | ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)     | 50         | 47.5 | 50   | 50.8 | 53   |     | 56   |     | 60   |     |
|     | ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)          | 80         | 74.8 | 80   |      | 80   |     | 80   |     | 80   |     |
|     | ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)   | 90         | 83.9 | 90   |      | 90   |     | 90   |     | 90   |     |
|     | ④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況        | 設定(%)      | 100  | 100  |      | 100  |     | 100  |     | 100  |     |
|     |                                     | 公表(%)      | 70   | 68.9 | 75   | 80   |     | 85   |     | 90   |     |
|     |                                     | 達成状況の把握(%) | 90   | 82.1 | 90   | 90   |     | 90   |     | 90   |     |
|     | ⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%) | 50         | 38.5 | 50   | 41.9 | 50   |     | 50   |     | 50   |     |
|     | ⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)             | 70         | 65.4 | 70   |      | 70   |     | 75   |     | 80   |     |

| 校種  | 指標内容                        | 2023       |     | 2024 |     | 2025 |     | 2026 |     | 2027 |     |
|-----|-----------------------------|------------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
|     |                             | 目標値        | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 |
| 小学校 | 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況 | 設定(%)      | 100 | 100  |     | 100  |     | 100  |     | 100  |     |
|     |                             | 公表(%)      | 65  | 62.4 | 70  | 80   |     | 85   |     | 90   |     |
|     |                             | 達成状況の把握(%) | 90  | 92   | 95  | 95   |     | 95   |     | 95   |     |